

「X 帯無線航行レーダー帯域における気象レーダーの利用に関する調査検討会」

開催趣旨

現在、我が国では、国、自治体、企業などの気象用レーダーとしてはいわゆる C 帯の一部（5.3GHz 帯）及びいわゆる X 帯の一部（9.7GHz 帯）が割当てられています。これらは主に固定された大型のものが想定されています。

他方、X 帯の他の一部（9.4GHz 帯）は、長く船舶及び航空機搭載用レーダーとして割り当てられて利用されており、小型かつ低価格の製品が多いことから、一部ではこれらの設備を利用して、いわゆるゲリラ豪雨や竜巻等の局地的な気象観測用や移動型の気象観測レーダーとしての実験が行われており、有効性も期待され実用局としての利用要望もあることから、メーカーによる気象観測レーダーの開発も行われています。

本件は、これらの期待に応えるため地域における電波有効利用技術に関する動向調査として、現在、主に船舶及び航空機のレーダーに使用されている 9.4GHz 帯において、小型気象レーダーを実用局として利用を行うための運用条件及び技術的な検証等を実施します。